

休眠預金等活用制度に関する認知度調査結果 (詳細版)

調査実施：2025年11月

調査対象：全国 15～79歳

有効回答数：n=7,268

(インターネット調査)

調査実施：株式会社マクロミル



JANPIA

一般財団法人 日本民間公益活動連携機構

本調査は、

- ① 休眠預金等活用制度に関する認知・理解・評価の実態
- ② 国民一般における社会課題への実感・関心

を把握し、社会課題と支援の仕組みとの関係が、
どのように認識されているかを確認することを目的として実施した。

- ・ 調査実施期間：2025年11月
- ・ 調査方法：インターネット調査
- ・ 対象：全国 15～79歳 一般男女
- ・ 有効回答：7,268件
- ・ 調査実施：株式会社マクロミル

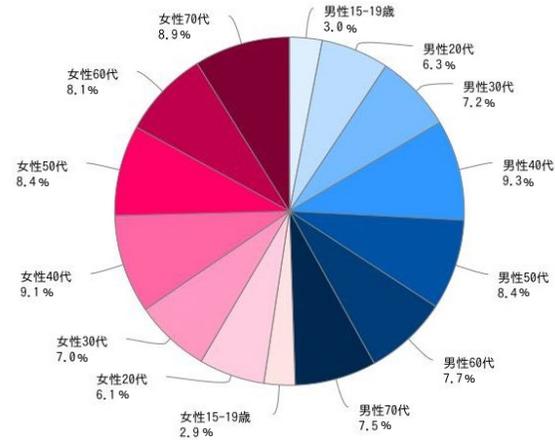
※本調査は、株式会社マクロミルに委託して実施しました。

	n		n		n		n
【北海道】男性15-19歳	9	【関東地方】男性15-19歳	72	【近畿地方】男性15-19歳	37	【四国地方】男性15-19歳	7
【北海道】男性20代	17	【関東地方】男性20代	176	【近畿地方】男性20代	74	【四国地方】男性20代	11
【北海道】男性30代	20	【関東地方】男性30代	198	【近畿地方】男性30代	80	【四国地方】男性30代	14
【北海道】男性40代	27	【関東地方】男性40代	251	【近畿地方】男性40代	107	【四国地方】男性40代	19
【北海道】男性50代	25	【関東地方】男性50代	225	【近畿地方】男性50代	97	【四国地方】男性50代	17
【北海道】男性60代	26	【関東地方】男性60代	180	【近畿地方】男性60代	84	【四国地方】男性60代	19
【北海道】男性70代	24	【関東地方】男性70代	179	【近畿地方】男性70代	91	【四国地方】男性70代	18
【北海道】女性15-19歳	9	【関東地方】女性15-19歳	68	【近畿地方】女性15-19歳	36	【四国地方】女性15-19歳	6
【北海道】女性20代	17	【関東地方】女性20代	169	【近畿地方】女性20代	75	【四国地方】女性20代	11
【北海道】女性30代	20	【関東地方】女性30代	188	【近畿地方】女性30代	82	【四国地方】女性30代	14
【北海道】女性40代	27	【関東地方】女性40代	239	【近畿地方】女性40代	111	【四国地方】女性40代	19
【北海道】女性50代	27	【関東地方】女性50代	214	【近畿地方】女性50代	102	【四国地方】女性50代	18
【北海道】女性60代	29	【関東地方】女性60代	182	【近畿地方】女性60代	92	【四国地方】女性60代	20
【北海道】女性70代	30	【関東地方】女性70代	205	【近畿地方】女性70代	110	【四国地方】女性70代	22
【東北地方】男性15-19歳	15	【中部地方】男性15-19歳	41	【中国地方】男性15-19歳	13	【九州地方】男性15-19歳	25
【東北地方】男性20代	27	【中部地方】男性20代	82	【中国地方】男性20代	24	【九州地方】男性20代	46
【東北地方】男性30代	33	【中部地方】男性30代	94	【中国地方】男性30代	28	【九州地方】男性30代	56
【東北地方】男性40代	44	【中部地方】男性40代	124	【中国地方】男性40代	38	【九州地方】男性40代	68
【東北地方】男性50代	42	【中部地方】男性50代	112	【中国地方】男性50代	32	【九州地方】男性50代	61
【東北地方】男性60代	47	【中部地方】男性60代	102	【中国地方】男性60代	33	【九州地方】男性60代	70
【東北地方】男性70代	40	【中部地方】男性70代	103	【中国地方】男性70代	34	【九州地方】男性70代	59
【東北地方】女性15-19歳	14	【中部地方】女性15-19歳	39	【中国地方】女性15-19歳	13	【九州地方】女性15-19歳	24
【東北地方】女性20代	25	【中部地方】女性20代	75	【中国地方】女性20代	23	【九州地方】女性20代	47
【東北地方】女性30代	32	【中部地方】女性30代	88	【中国地方】女性30代	27	【九州地方】女性30代	58
【東北地方】女性40代	42	【中部地方】女性40代	118	【中国地方】女性40代	37	【九州地方】女性40代	72
【東北地方】女性50代	42	【中部地方】女性50代	110	【中国地方】女性50代	33	【九州地方】女性50代	66
【東北地方】女性60代	49	【中部地方】女性60代	107	【中国地方】女性60代	36	【九州地方】女性60代	75
【東北地方】女性70代	46	【中部地方】女性70代	118	【中国地方】女性70代	41	【九州地方】女性70代	72

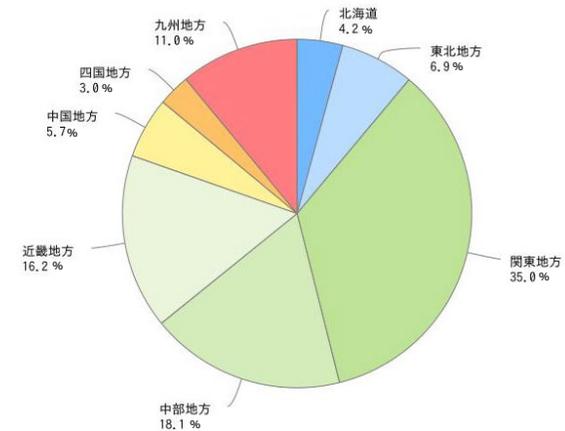
※各エリアの性年代で人口構成比回収

全体 **7268**

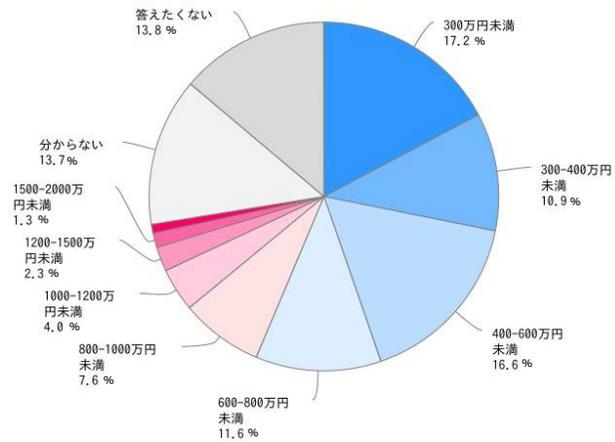
性年代



居住地域



世帯年収



I .制度に関する認知・評価

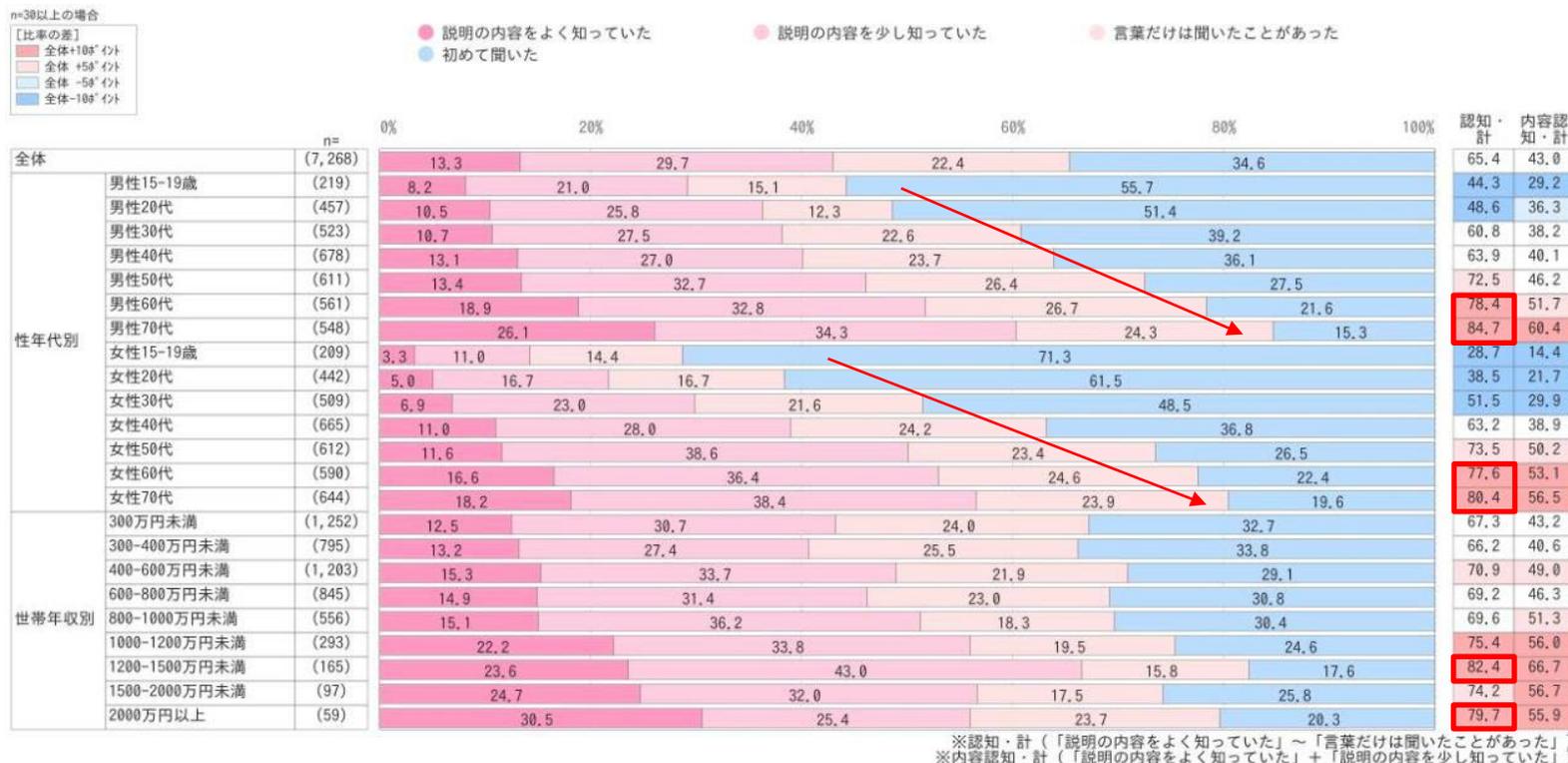
「休眠預金」認知



Q あなたは、「休眠預金」を知っていますか。
 「休眠預金」とは、金融機関に預けられた預金で10年間取引がないものを指します。「休眠預金」となった後でも、手続きをすれば引き出すことが可能です。

SA

※全体ベース



休眠預金を認知している人は全体で65%であり、内容まで認知している人は43%。
 性年代別では、男女ともに年代が上がるにつれて認知が上昇しており、男女60-70代では認知が8割前後と非常に高い結果となった。世帯年収別では、世帯年収1200-1500万円の層で認知が8割を超えており、次いで2000万円以上の層の認知が高いなど、高世帯年収層ほど休眠預金の認知が高い傾向がみられる。

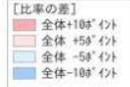
「休眠預金活用制度」認知

Q あなたは「休眠預金活用制度」を知っていますか。
 「休眠預金活用制度」とは、払い戻しの呼びかけなどをしてもなお休眠預金となっているお金の一部を、法律に基づきNPOや社会課題の解決に取り組む団体の活動に活用する仕組みのことを指します。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合



● 説明の内容をよく知っていた ● 説明の内容を少し知っていた ● 言葉だけは聞いたことがあった
 ● 初めて聞いた



※認知・計（「説明の内容をよく知っていた」～「言葉だけは聞いたことがあった」）
 ※内容認知・計（「説明の内容をよく知っていた」+「説明の内容を少し知っていた」）

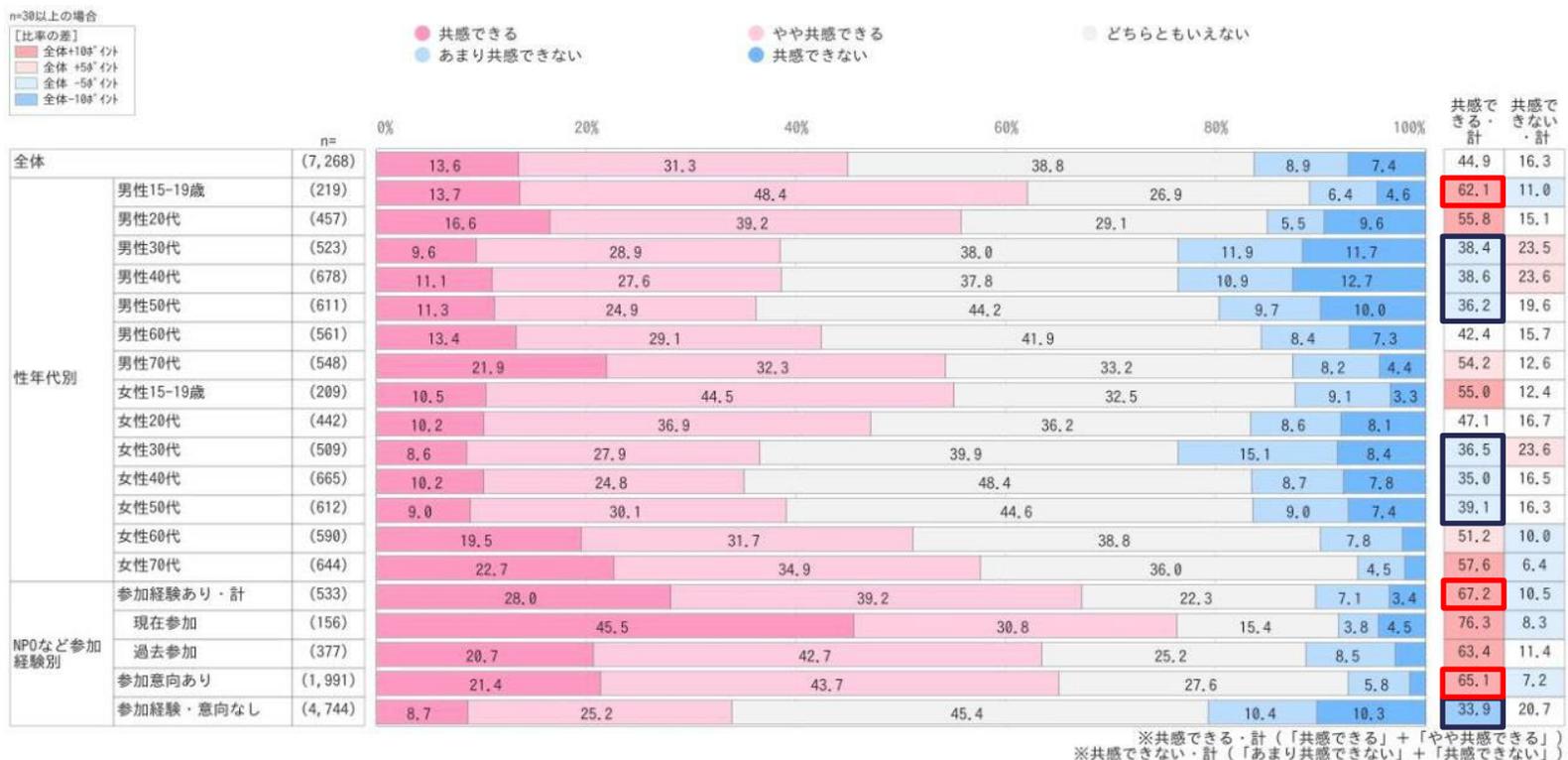
休眠預金活用制度を認知している人は全体で35%であり、内容まで認知している人は19%。
 性年代別では、男性70代の認知は約5割に達しており、全体として年齢が高いほど認知が高まる傾向がみられる。男性20代では上位1「説明の内容をよく知っていた」のスコアが9%で、他性年代よりやや高い結果。
 NPOなど参加経験別では、参加経験がある層の認知が参加経験/意向なし層と比べて高め。特に、現在NPO等に参加している層では上位のスコアが36%と非常に高くなっている。

「休眠預金活用制度」 共感度



Q 以下の画像は、「休眠預金活用制度」について説明したものとします。あなたは、以下の説明を見て、どの程度「休眠預金活用制度」に共感できますか。

SA



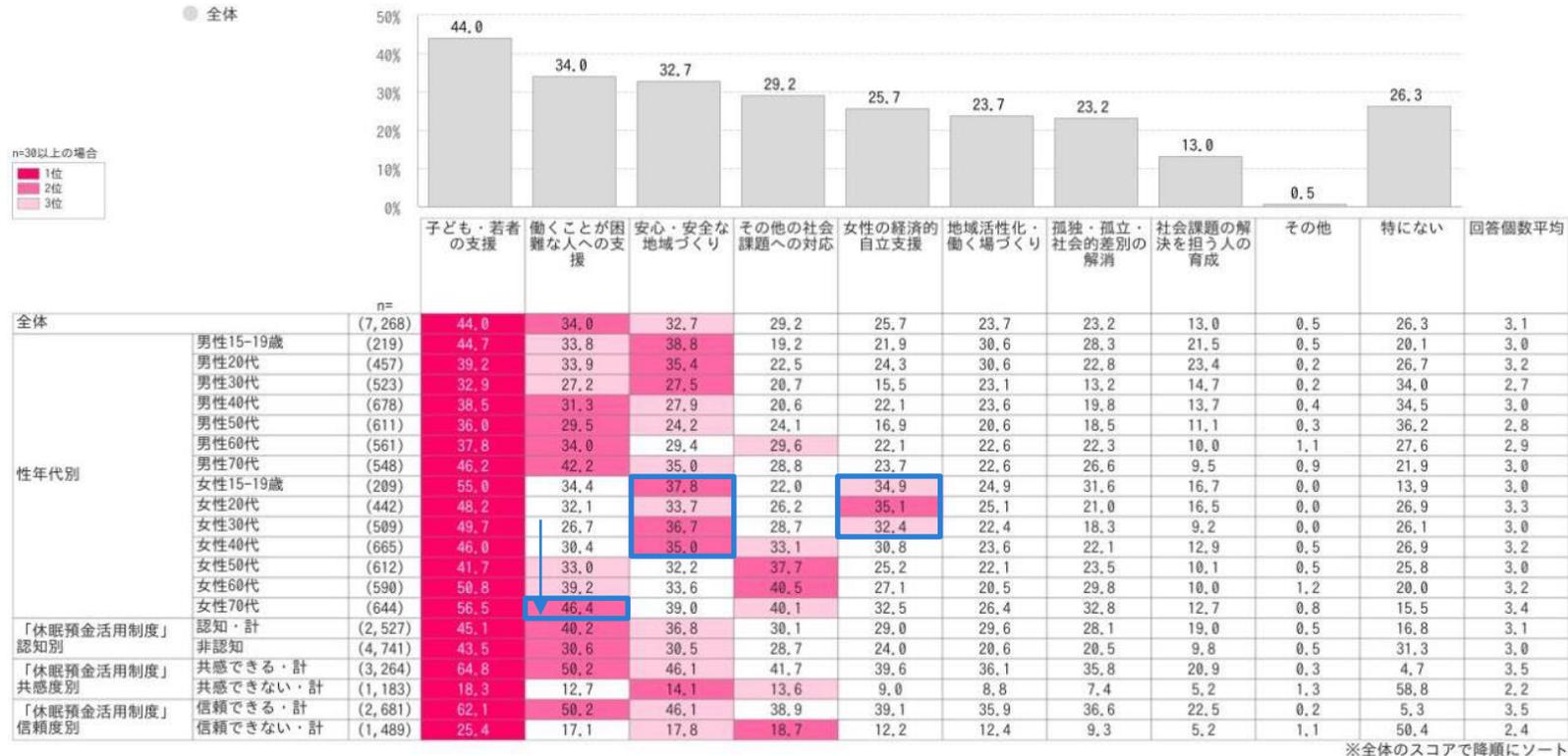
制度への共感度としては、上位2「共感できる・計」のスコアが全体で45%。ただし、ボリュームゾーンは「どちらともいえない」で39%となっている。性年代別では、男性10代の上位2スコアが6割を超えている一方、男女30-50代では上位2スコアが全体よりやや低め。NPOなど参加経験別では、参加経験あり層や意向あり層で上位2スコアが6割を超える結果。参加経験・意向なし層の上位2スコアは34%で全体より低いが、それでも下位2「共感できない・計」スコア（21%）よりも高くなっている。

「休眠預金活用制度」共感できる取り組み

Q 以下の「休眠預金活用制度」の具体的な取り組みについて、あなたが共感できるものをすべてお選びください。

MA

※全体ベース



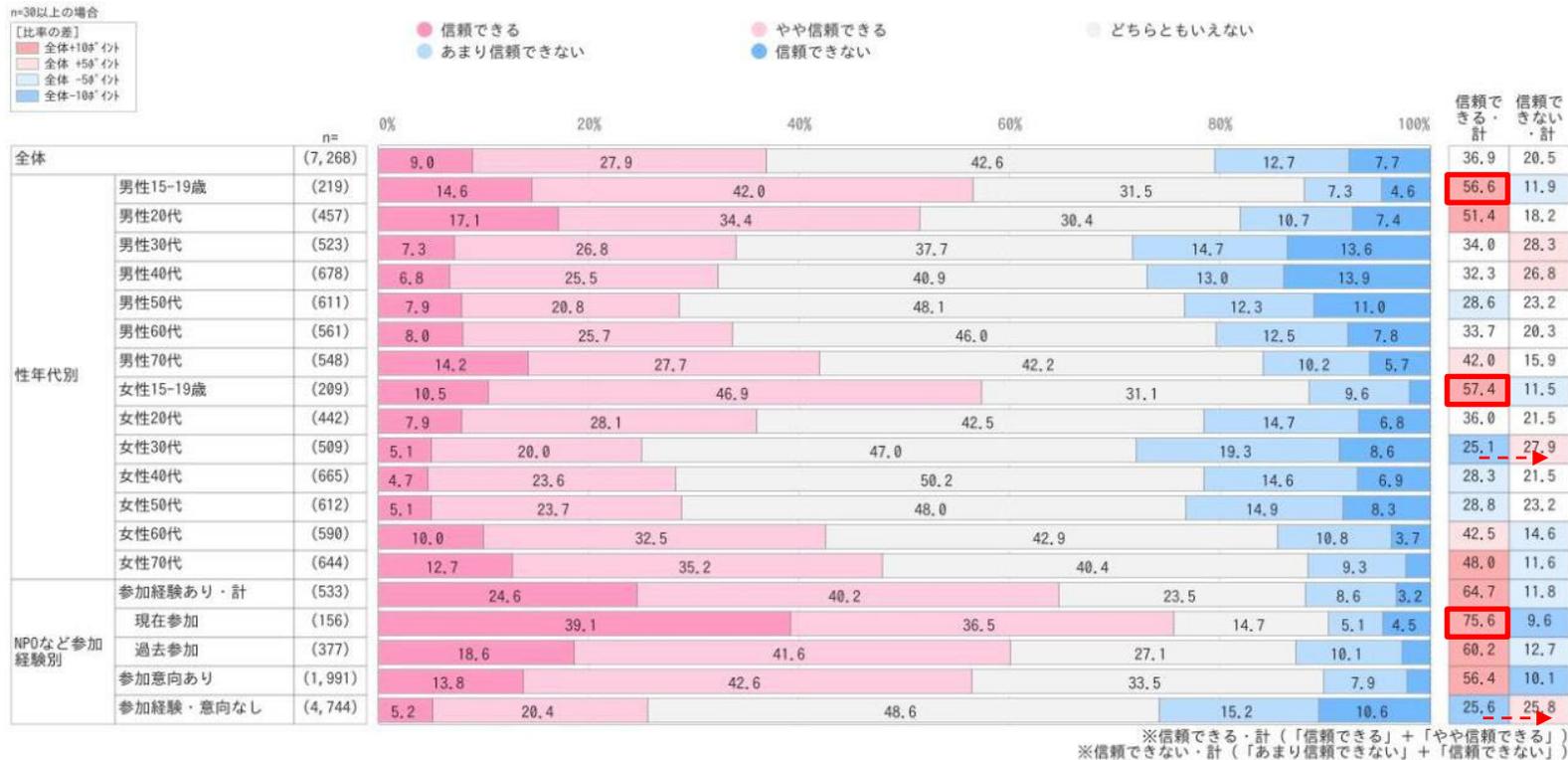
共感できる取り組みとして、全体では「子ども・若者の支援」（44%）「働くことが困難な人への支援」（34%）「安心・安全な地域づくり」（33%）が上位に挙がっており、制度認知者の中で認知上位に挙がっていた取り組みへの共感度が高い様子。いずれの層でも「子ども・若者の支援」がトップ。性年代別でみると、女性では高齢層ほど「働くことが困難な人への支援」が上位に挙がりやすく、特に女性70代では46%と他性年代よりも高め。また、女性の若年層では「安心・安全な地域づくり」や「女性の経済的自立支援」が上位に挙がりやすい傾向がみられる。

「休眠預金活用制度」信頼度

Q 以下の画像は、「休眠預金活用制度」について説明したものととなります。あなたは、以下の説明を見て、どの程度「休眠預金活用制度」を信頼できますか。

SA

※全体ベース



制度への信頼度としては、上位2「信頼できる・計」のスコアが全体で37%。ただし、ボリュームゾーンは「どちらともいえない」で43%となっている。性年代別では、男女10代の上位2スコアが5割後半と他性年代よりも高め。一方で、女性30代では上位2スコア（25%）より下位2「信頼できない・計」スコア（28%）の方が高く、他性年代とは異なる傾向がみられる。NPOなど参加経験別では、特に参加経験のある層で上位2スコアが76%と他の層と比べても高めであるのに対し、参加経験・意向なし層では上位2スコアと下位2スコアはいずれも26%で、わずかに下位2スコアの方が高くなっている。

「休眠預金活用制度」信頼度理由

Q あなたが「休眠預金活用制度」を信頼できない理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

MA

※「休眠預金活用制度」を信頼できない方ベース



※全体のスコアで降順にソート

制度を信頼できない理由としては、「休眠預金の使い道が不透明」（49%）「支援先団体の選定過程・基準が不明」（41%）「休眠預金活用に納得できない」（38%）が上位。性年代別では、多くの層で「休眠預金の使い道が不透明」がトップである一方、女性60-70代では「支援先団体の選定過程・基準が不明」が56%でトップ。また、男女20-30代では「お金の管理について不安がある」が上位に挙がっているほか、男女60代・女性20代・70代では「実際にどんな活動が実施されているか分からない」も上位に挙がっている。

「休眠預金活用制度」に期待すること



Q 「休眠預金活用制度」について、あなたが今後〔も〕期待することをご自由にお答えください。
※制度や支援対象先、事業の成果などについて、ご自由にお答えください。

FA

※全体ベース

子どもや若者への支援

- ✓ 休眠預金を生かして、ヤングケアラーや経済的理由で進学出来ない子供達に役立てて欲しい。未来ある子ども達をが経済的理由で、希望を断念すことは、とても残念に思うから。公正、健全に活用されることを願います。(女性70代/制度内容認知)
- ✓ 将来の担い手である子供たちの中で貧困や親からの虐待でつらい思いをしている子供が救えるならば、この制度は意義があると思う。(女性60代/制度名称認知)
- ✓ 子供・若者支援をすることで、若者に未来を与えてほしい(女性20代/制度非認知)
- ✓ 地域の子も達が過ごしやすい社会になる為に役立たせて欲しい(男性20代/制度非認知)
- ✓ 子ども支援のための食堂や就学機会を拡大を期待する(男性50代/制度内容認知)

災害対応・地域の振興支援

- ✓ 災害支援のために使ってもらいたい。どのくらい休眠しているのかは不明だが、確課題に分配するのではなく、実際に災害が起こったときのために、残しておいてほしいのではないかと思います。(男性30代/制度非認知)
- ✓ 日本は災害が多いので、被災地の復興に向けた取り組みが必要だと思う。(男性20代/制度非認知)
- ✓ 地震に復旧が滞っている地域の災害支援などに使ってほしいと思う(女性70代/制度非認知)
- ✓ 災害の時に、人手不足を解消する為に使って欲しいです。(女性60代/制度名称認知)
- ✓ 災害などで家を失った人が困らないようにしてほしいです(女性70代/制度内容認知)

生活困窮者や支援が届きにくい人への支援

- ✓ 経済的や医療、介護、子育てなどに困窮している人に支援できればよいが、本当に必要とされている人々の声はあまり届かないもの。そういう人達の声をもっと聴いて欲しいなと思いました。(女性70代/制度内容認知)
- ✓ とにかく困っている人々の支援を優先してほしい。明日を生きるのに苦労している人々がたくさんいると思う。(男性40代/制度名称認知)
- ✓ 個人では解決出来ない問題を、この制度の活動によって本当に困っている人達の救済が今まで以上に行われていく事が非常に重要だと感じてそれを期待している。(男性40代/制度内容認知)
- ✓ 休眠預金を使用するのはとてもいいと思う。使い方についてが難しいと思うので、本当に困っている人の支援になればいいと思う(女性20代/制度非認知)

公的支援が不足する分野への対応

- ✓ 国や地方の政治でまかなえない部分の支援がされること。また、現在の政治は不透明な部分も多いうえ、実際の社会問題に速やかに、かつ、的確に対応しきれていない部分もあるため、そのような問題にいち早く確実な支援がされること。(女性10代/制度非認知)
- ✓ 行政が取りこぼしている地域の困っている人達を行政に結びつけたり、支援をする事ができる事を期待する。(女性60代/制度非認知)
- ✓ 国や自治体が直接対応困難な社会課題の解決や、民間公益活動を行う団体の自立と持続可能性の向上(男性10代/制度非認知)
- ✓ 行政の制度では救われない人達に対して手を差し伸べる手段として期待したい。(男性70代/制度内容認知)

公平性・透明性の確保

- ✓ 制度が適応される団体の透明化(なぜその団体なのか?、など)を大前提とし、その提供された資金がどういった活動に利用されたかを明確にし、次回以降もきちんと審査などで評価をする仕組みが必要だと思う。(女性30代/制度非認知)
- ✓ 税金で行うのが本来の姿なので、本制度の利用は使用先を明確にし、収支計画をちゃんと公表していただきたい(男性60代/制度非認知)
- ✓ 資金の使い方が不透明ではなく、しっかりとわかる形で人の役に立つ活用をしてほしい(女性40代/制度非認知)
- ✓ 公平に利用され、不正な活動資金に充てられることが一切ないらしいと思う(男性30代/制度非認知)
- ✓ 事業の内容に透明性があり、公平な運用をしていること。(男性70代/制度内容認知)

制度の認知向上

- ✓ 休眠預金については知っている人はある程度いると思われるが、その活用制度については、まだまだ知られていないと思います。ですので、制度があることを広く認知してもらうことが必要なのではないかと思えます。(女性50代/制度名称認知)
- ✓ 制度や支援先をもっと周知し続けてほしい。銀行や国が個人の預金を取ったように受け取る人がまだまだ多く、良い制度なのにもったいない。(女性40代/制度内容認知)
- ✓ テレビなどのメディアで、もっと大きく取り上げてほしい。多くの人に知ってもらいたい。(男性50代/制度非認知)
- ✓ 認知が広まって活用されることがもっと増えて困っている人たちが暮らしやすくなって欲しい(男性10代/制度非認知)

Ⅱ. 社会課題に関する認識

「支援不足の場面」に関する経験

Q 日本には、国や地方自治体などの公的な制度で支援が届かず困っている人たちがいます。あなたは、実際に「支援が行き届いていない」と感じた場面を経験したことや見聞きしたことはありますか。あなたの状況にあてはまるものをすべてお選びください。

MA



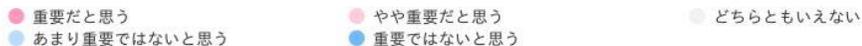
支援が行き届いていないと感じた場面の経験については、全体の43%が「身近ではないが、SNSやメディアなどで困っている様子を見聞きした」と回答している一方、「経験や見聞きがない」層も同程度存在している。「自分が当事者として経験した」層はわずか8%にとどまる。性年代別では、男女ともに20代以下で経験または見聞きした層が6割を超えており、特に男性20代の15%は「自分が当事者として経験した」としている。NPOなど参加経験別では、参加経験や意向あり層での経験率が非常に高く、特に現在参加している層の37%は「自分が当事者として経験した」と回答している。

Q あなたは、社会課題に取り組む団体（NPOなど）の活動が社会にとってどの程度重要だと思いますか。

SA

※全体ベース

n=30以上の場合



※重要・計（「重要だと思う」+「やや重要だと思う」）
 ※重要でない・計（「あまり重要ではないと思う」+「重要ではないと思う」）

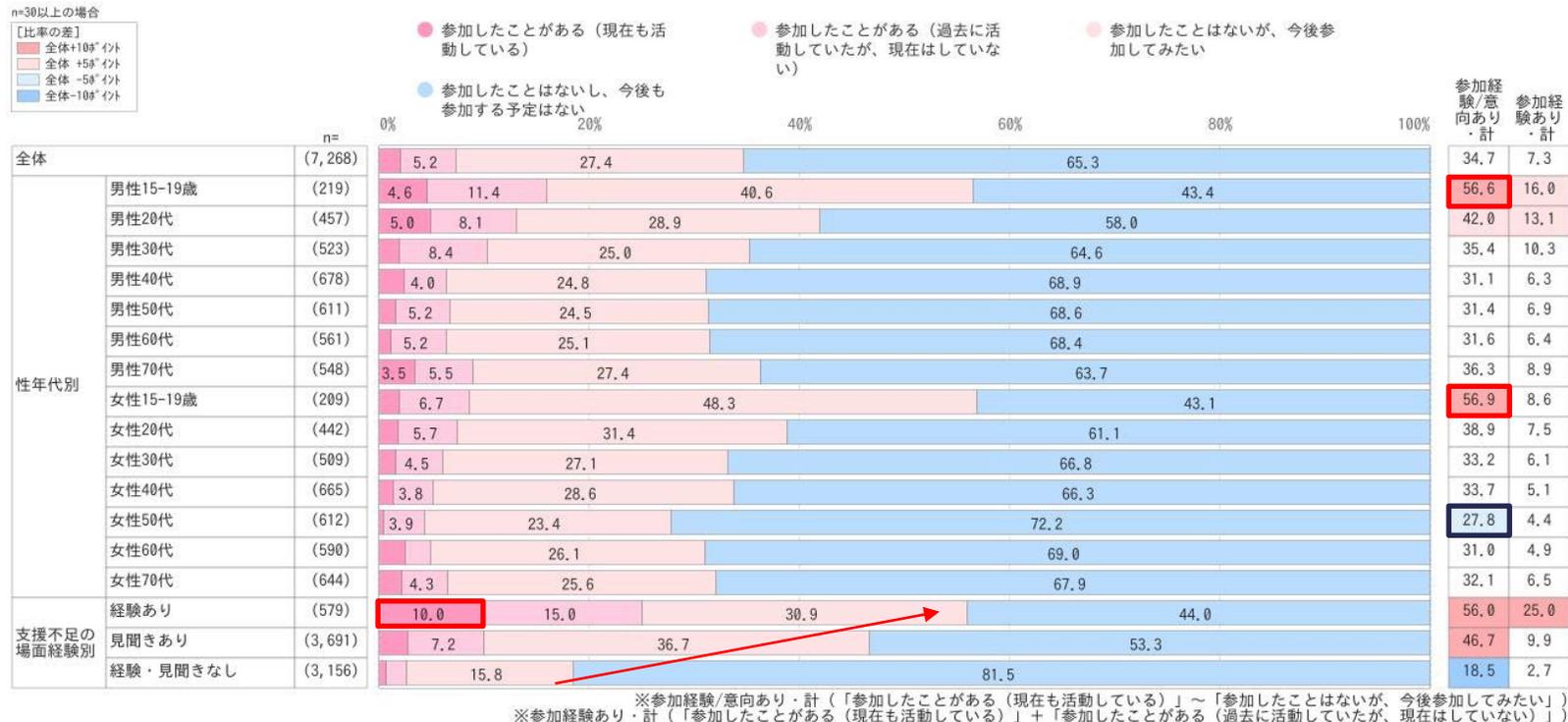
NPOなどの団体の活動評価に関して、全体では「やや重要だと思う」が38%でボリュームゾーンとなっており、上位2「重要・計」のスコアは72%。性年代別では、男女10代・女性20代・70代の上位2スコアが8割を超えている一方、男性30-60代ではスコアが全体より低い傾向がみられる。

支援不足の場面を経験した層やNPOなどへの参加経験/意向がある層ほど上位2スコアが高くなっており、特にNPOなどへの参加経験/意向あり層では半数以上が上位1「重要だと思う」と回答している。

Q あなたは、社会課題に取り組む団体（NPOなど）の活動に参加したことがありますか。

SA

※全体ベース



NPOなどの活動への参加経験については、全体で35%が参加経験または参加意向があると回答している。性年代別では、特に男女10代の参加経験・意向が突出しており、いずれも5割を超えている。一方、女性50代では参加経験・意向が3割に満たない結果。支援不足の場面経験あり層では、NPOなどへの参加経験・意向が高くなっており、特に上位1「参加したことがある（現在も活動している）」（10%）スコアが他の層と比べて高めとなっている。

Q 以下の活動について、あなたが「興味があるもの」をお選びください。

MA

※全体ベース



興味のある活動として、全体では「募金・寄付」「地域でのボランティア活動」（いずれも24%）「クラウドファンディングでの支援」（16%）が上位。一方、「特になし」と回答した人も46%存在している。性年代別では、男性10代ですべての項目のスコアが全体より高くなっており、興味のある活動が幅広い傾向。対して、男性40-60代では「特になし」が5割超。NPOなど参加経験別では、参加経験や意向がある層ほど興味のある活動が多い様子。

実際に参加したことがある活動



Q 以下の活動について、あなたが「実際に参加したことがあるもの」をお選びください。

MA

※全体ベース



参加したことがある活動として、全体では「募金・寄付」(33%)「地域でのボランティア活動」(19%)「クラウドファンディングでの支援」(7%)が上位。半数以上は参加したことがある活動は「特にない」様子。性年代別では、男女10代・女性70代で「募金・寄付」「地域でのボランティア活動」が全体より高いほか、男性20代以下では「情報発信・啓発活動」がやや高め。支援不足の場面を経験していない層やNPOへの参加経験・意向がない層でも、「募金・寄付」は2割を超えている。

